

令和6年度 第3回 京田辺市社会教育委員会
会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 活動報告

全国社会教育研究大会に参加した委員が報告を行った。

(2) 複合型公共施設における生涯学習機能について

資料の概要について、事務局が説明

(委員) 複合型公共施設ができれば、今より施設の設備が整い良くなる。

(委員) 見直しイメージ図に公民館機能と記載しているが、社会教育法の枠組みを外すのか、保持するのか。それによりできること、できないことが変わる。有料コンサートもできるのか。

(事務局) 社会教育法の枠組みを外して自由に使用できるようにという提案である。イメージ図の文言はご意見があれば取り入れていきたい。社会教育法上の教育委員会の義務は果たしつつ、施設としては有料コンサート等自由に使える方向で考えている。

(委員) 公民館機能を保持しながら、社会教育法による施設使用の制約をなくす。社会教育法は制約ばかり書かれているので、公民館という名称と使うメリットが見当たらないように思うが、本当にそれで良いのか、意見があればいただきたい。

(委員) 現在の課題は、中央公民館は予約がしにくいことと、利用者が限られていること。3か月前から3日前までしかできない。5人以上の団体でないと借りられないが、何かを始めるときに5人は難しいので、個人でも借りられれば良い。当日空きがあれば自由に借りられることが望ましい。また、中央公民館は狭い。広いスペースが欲しい。オープンスペースでもあり、貸切りもできる場所があれば良い。利用者が減らないよう使用料は安くしてほしい。

(委員) 施設が良くなれば色々な人が使用できるようになるが、今利用している人の使い勝手が悪くならないようにして欲しい。文化が衰退しないように料金は安価にして欲しい。

(委員) 中央公民館で行っているイベントは貧弱。京田辺を代表する場所とは言えない。けいはんなホールや文化パークは立派な施設で、外部の興行を行っている。ホールの規模はどの程度か。

(委員) ホールは500人～700人規模。大きなコンサートを行う規模ではなく、身の丈に合った地域の人を使いやすい規模になる予定

(委員) インクルーシブな施設にして欲しい。雨でも移動でき、傾斜がない、子連

れにも来てもらいやすい施設。ここに来たら何かレクリエーションができる、誰でも使えるフリースペースが欲しい。

(委員) 中央公民館が社会教育法から外れると、分館公民館も外れるのか。施設の所管課も社会教育課から外れるのか。

(事務局) まだ決定していないが、もしこの方向になったら、そうなる可能性がある。施設の所管課がどこになるかは別として、社会教育課は社会教育事業を続ける。

(委員) 分館公民館はどうなるのか。複合型のミニチュアのようなものか。

(事務局) 社会教育活動は残るが、営利事業は行えない等の制約は外れる。集会所が複合型施設の下組織になるかどうかはわからない。

(委員) 社会教育法の制約が外れるのはとても良い。

(委員) 習い事の教室が増え、サークルの予約が取れなくなることは懸念する。

(委員) 地域活動に重きを置き、予約の仕方を工夫して欲しい。

(3) 京田辺市の社会教育について

資料の概要について、事務局が説明

(委員) 来年度に事業を進めるのか。どの事業を行うのか。社会教育課か社会教育委員か、誰が事業を進めるのか。

(事務局) 事業については、ご意見をいただきたい。事業を進めるのは、社会教育委員と社会教育課で協力して行いたい。

(委員) 公民館はサークルが使用していなければ鍵を閉めている。放課後の子どもが不安だから来るとか、高齢者が仲間づくりに来るとか、常時いつでも開いて行ける場所にするには常に誰かがいることが必要

(事務局) 将来的には誰かが常駐できるようにしたい。常駐する人がいれば、その人のための補助金を作っていく。

(委員) 地域を回ったが、地域活動には差がある。地域活動が活発な地域とそうでない地域がある。活発でない地域をサポートして欲しい。活発な地域には、核となる人材がいる。イベントをして解決するということではなく、地域をどう活性化するか。活発な地域も高齢化が進んでいる。次の世代につなげることも考えていかないといけない。

(委員) 教育委員会や社会教育課は現状を知らなすぎる。地域を回って動いていない。小学校の一斉清掃には先生がほとんど来ないし、保護者もPTAの役員しか来ない。土曜参観の後に講演会をしたが、参観には保護者が大勢来るが、講演会にはほとんどの保護者は参加しない。参加する人はどこでも参加する。

(事務局) 生涯学習推進協力員に地域の課題の聞き取りをしている。これから何が必要か、何をしないといけないか、今活動している地域から活動していない地域に広めたい。

(委員) 地域ごとに課題は違うので、特定の地域を選び事業を立ち上げる。活発な地域をこれからどう継続させるか、活発でない地域のことも同時に考えていく。

(委員) 活発な地域も同じ人が活動している。10年先は分からない。

(委員) 人を発掘するのは簡単なことではないが、地域の社会教育が進んでいる実感は持って欲しい。

(委員) 地域でイベントをしても、手伝ってくれる人はいないのではないかと。一度社会教育課で企画し、実施する。来年以降は参加者の中から一緒に実施してくれる人を見つけていき、その人を核として来年度はイベントを行う。

- (4) 令和 6 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会の役割分担について
研修会の司会及び記録係を選出

- 4 その他
前社会教育委員の教育委員会表彰授賞について報告

- 5 閉会 副委員長あいさつ